

11月12日(火) 1年生道徳科「人権を考えた生き方について」授業後の感想

《小学校の先生より》

・タイムリーな話題で食いつきがよく、身近に感じられたのだと思います。誹謗中傷に対してのただの言い返しにならないようにするにはどうしたらいいのかなあと考えながら見ていました。当事者の立場に立って考える、自分も差別されるときがあるかもしれない、差別している側かもしれない…とゆさぶるためには、どうしていこうか？と考えるのは嫌いではないのですが、実際目の前の子どもと授業をしていくと思ったようにはなりません。ただ、積み重ねだと思います。差別を見抜くスキルをつけていきたいと、自分の学級づくりをふり返って思いました。

・目線をつないで話を聞いていることにビックリでした。中学校での頑張りが伝わってきました。意見交流などはよくする子たちだったので、活発に意見が出ていて、「楽しく」「みんなで」が見られました。SNSに詳しい世代ですので、私たちよりSNSへの書き込みへの違和感に、素直に「おかしい」と言えるのも素晴らしいですね。「他人事ではなく、自分事」ということを大切にしているいろんな学習、経験を積んでいてほしいです。

・中1の各クラスを参観させていただいてまず感じたことは、「仲良く楽しそうだなあ」「1年生の先生方ありがとうございます」ということでした。明るくよく話す雰囲気は6年生の頃のままでしたし、懐かしく見せていただきました。授業では、誹謗中傷を取り上げておられましたね。指導案の生徒像に書かれていたとおり、自分事になりにくい傾向は分かります。実際に自分が誹謗中傷の対象になるであろう、アメリカでのアジア人差別だと身につまされるのだろうか…など、考えながらの参観でした。自分が対象になる設定上の体験は表情を硬くしてよく考えると思います。

《授業者より》

・生徒にとっても身近なことで、何があったかを知っていて導入からスムーズに入ることができた。誹謗中傷を見たときにどうするかでは、「無視する」「相手にしない」といったネット上での話で考えている生徒もいたので、もっと自分事として考えさせるように発問すべきだと思った。日々の生活の中での言葉遣いを考え直したり、見たときにどう行動するかということを考えさせたりするきっかけになったと思うので、さらに意識していけるよう声掛けしていきたい。

・夏以降の出来事を教材に使ったので、興味をもって授業に参加できたのではないと思う。生徒も（一部の生徒に偏ってしまったが）発表も多く、キーワードとなるようなものがたくさん出たが、うまくピックアップできずに進めてしまったところがあった。もっと深い部分にも迫りたかったが、現状ではここで精一杯かと思う。今後知識も増やしつつ、3年間通して人権意識の向上を図っていきたい。

《中学校参観者》

・導入から盛り上がる流れで、生徒たちの意見がしっかり引き出せていた。韓国語の校歌について肯定的な意見をもつ生徒がほとんどで、誹謗中傷が起こったことには共感する生徒がほぼおらず、どう行動していくべきかを考えられていた。「無視する」という意見もあったが、SNSではなく、実際に目の前にそういう人がいたら？無視していたら誹謗中傷がなくなるよ？という聞き直しに、「DMする」などの具体的な行動や雰囲気作りなど何が必要かを活発に議論できていた。

・写真のスライドを見て生徒は様々な反応をしていたと思います。考えさせるのにとっても分かりやすくまとめられていたと思います。誹謗中傷の言葉を示すことで、言葉が行き過ぎていないことに気付いた生徒もいるのではないかと思います。歴史について先生からキーワードが出たときに、ルーツをもつ生徒に対してどのように進めていけばよいか、丁寧に考える必要があると思いました。

・1組も2組も発表できる生徒が多いので、活発な意見交流が垣間見ることができて良かったです。子どもたちとの親和性の高い授業内容で、積極的に参加する姿に安心感を覚えました。また、最近の話題を題材に設定されていたので、自分たちの周りにでも起こり得る身近なことだと想起しやすかったのではないかと思います。

・複雑な日韓関係の歴史をほとんど知らない世代が、京都国際高校の事例にどんな反応をするのか興味をもって見せていただきました。ほとんどの生徒が優勝をたたえる意見で、最初から韓国語の校歌に「!」「?」と思った生徒はそれほど多くなかったようでした。それも「日本語と違って驚いた」という程度のもので否定的な感想ではなく、言葉や国籍の違いにこだわらない素直な反応に、さすが多様性の時代を生きる若い世代だと感じました。「差別」はこのようにしてなくなっていくのだと感じさせてくれた生徒の反応でしたが、ではなぜ誹謗中傷がいけないのか、なぜ韓国語だから誹謗中傷されるのか、なぜそれが間違っているのかを、個人の感情で返すのではなく、生徒の意見にもあったように、証拠（根拠）を示して、相手に伝わる言い方で、伝える力を育てていくことが大切だと思います。そのためにも、このような歴史的背景をもつ人権課題は、差別の事例だけを教えるのではなく、歴史教育の中できちんと押さえていくことの必要性を再確認しました。

・1年生の良さが出た授業だった。多くの意見が出されてよかった。韓流などもあり、韓国（言語や文化）を他の諸国のうちのひとつと捉えている生徒も多かった。SNSの中傷について「いけない」と言いながら、自分たちの生活の中では悪口や不満を平気で口に出しているので、日常につながる指導にしていかなければならない。「人権」を中心にするか「情報モラル」を中心にするか、プランニングの段階から指導案を何度も練り直して本番に至ったが、人権の学習で歴史を学んだ状態の子どもにはより効果が高いのではと感じた。